

漁港・漁場・海岸の施設の設計にかかる相談事例

分類項目	漂砂関係
相談タイトル	港内堆砂対策について
相談者	新潟県新潟市
相談内容	<p>市が管理している漁港の水域施設において砂の堆積傾向が顕著である。現在の漁港形状において、シミュレーションでは年間 20,000 m³の砂の流入が推定され、毎年浚渫を継続して実施しているが、冬期間は港内への砂の流入によって出漁ができない状態となっている。港内堆砂に関する対策を検討したが、防砂堤防の改良等膨大な対策費用が掛かる結果となった。今後、膨大なコストをかけて改良を行うべきか、効果的・効率的な浚渫方法があるのかを含め、漁港内に流入する堆砂対策について相談したい。</p>
相談会の結果 (WEB 協議：令和 6 年 9 月 9 日実施)	<p>水産技術研究所から以下のアドバイスを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漂砂シミュレーションと現状の浚渫量の経緯から、既存の防砂堤（透過構造）を不透過構造に改良することで、堆積量はおそらく減少すると思う。しかし、それだけでは堆砂量はゼロにはならない。 ● 漁港内だけの対策は難しいため、根本的な対策をとるなら、上手側からの土砂供給量を調整することが必要である。 ● 例えば、北防砂堤の港外側にサンドポケットを設置するなど、県などと協議の上、漁港区域より上手側で実施する方法も考えられる。 ● 陸上浚渫できる位置にサンドポケットを設置することで、海上浚渫よりもコストは抑えられる。 ● サンドポケット以外にも、サンドリサイクル、サンドバイパス、深堀などもあるが、いずれも浚渫は併せて続けていかないといけないものであり、効果としては浚渫実施の間隔を伸ばせるというものである。 ● 港内堆砂対策については、PDCA サイクルが重要であり、経過観察をして継続して実施していくことが重要である。この際、有識者を交えた評価などの方法が考えられる。

注意) 本資料は設計相談会の事例を示すダイジェスト版です。実際の協議では箇所名や詳細なデータを挙げたうえで、より具体的な相談を行っています。